

第20回

東北大学感染症共生システムデザイン学際研究重点拠点

SDGS-IDセミナー

社会にインパクトある研究_C3感染症超克 共催

「感染症」×「医学」

ワクチンの評価

— 新型コロナウイルスmRNAワクチンにより誘導された
細胞性免疫の長期フォローアップからの知見 —

2022年12月23日（金） 12:00-13:00

【Zoom】参加無料【言語】日本語

参加登録

登録締切：12月22日（木）15:00迄

<https://forms.gle/ntXrYnZUrMDjVSgt5>



<プログラム> 12:00-12:05 オープニング
12:05-12:25 講演
12:25-12:55 質疑・総合討議
12:55-13:00 ラップアップ

講演概要

新型コロナウイルスは大きな災いをもたらした反面、科学の分野ではワクチンの迅速な開発承認に至りました。これには2つの僥倖が関与しました。mRNAワクチンの開発が進んでいた事、そして人類が他のコロナウイルスから教訓を得ていた事でした。Sタンパクが感染に必須という知識、そしてSタンパクを安定して発現させるための方法がワクチン開発の助けになりました。しかし、mRNAワクチンの有効性の評価方法は未だ十分には確立されておらず、ワクチンをいつまで接種し続ける必要があるのかは不明です。従来のワクチンの評価は抗体産生を指標にしてきましたが、重症化防止やより有効な感染防御にはT細胞が重要であることがわかっています。T細胞免疫を日常的に評価できる方法が確立されていませんが、それができれば、今後のワクチン接種の必要性や接種時期の判断が可能になります。本セミナーでは、mRNAワクチンによって誘導されるT細胞免疫の最新の測定法を紹介し、ワクチン効果を評価する上でのT細胞免疫の重要性について議論します。

講師 高口善信 (アメリカ オレゴン州 Providence Cancer Center, Associate Director)



博士号（琉球大学）取得後、2003年に渡米。アメリカオレゴン州OHSUでDavid Parker教授のもとT細胞活性化とエフェクター機能に関する基礎免疫の研究にポスドク及び上級研究員として従事。2013年よりオレゴン州Providence Cancer Centerにて癌の免疫療法の研究に従事し、現在、免疫モニタリング部門 アソシエイト・ディレクターとして、多施設間臨床試験の免疫モニタリングや、最新のテクノロジーを取り入れた、癌免疫療法の機序解明と癌コンビネーション免疫療法の開発を目指したチームサイエンスに携わる。



東北大学感染症共生システムデザイン学際研究重点拠点（SDGS-ID）

■ 拠点Web : <http://www.sdgs-id.med.tohoku.ac.jp>

■ お問い合わせ : sdgs-id@med.tohoku.ac.jp



東北大学 社会にインパクトある研究 -C3感染症超克

http://impact.bureau.tohoku.ac.jp/contents/c3_infectious_disease.html